

## 1 目 的

- (1) 学年行事や学校行事への積極的な参加を通して、自他の良さを認め合い、ともに成長していこうとする豊かな心を育てるとともに、主体的に解決していこうとする態度を養います。
- (2) 基礎学力の定着を図るとともに主体的に学ぶ意欲や態度の育成に努めます。
- (3) 自他の命に向き合う時間を、道德の時間や各教科の授業、講演会等の行事としても設け、自他の命や人権を大切にする意識、態度、実践力を養います。
- (4) 全校生徒対象に「しっぴータイム」やハートヘルスタイム講演会を設け、他者とのかかわりの中でよりよい人間関係をつくるためのコツや技術を習得させるとともに、自己を見つめ、自己肯定感・自尊感情を育みます。また、授業力の向上、いじめ・不登校への対応など職員の資質向上を図ります。

## 2 内 容

### (1) しっぴータイム

「しっぴータイム」を取り入れて8年目となりました。「しっぴータイム」とは、ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを組み合わせた活動で、他者とかかわりながらよりよい人間関係を築くためのコツや技術を習得させるとともに、自己肯定感や自己有用感を高めることを目的とした1回10分の活動です。本校では、週時程に組み込み毎週月曜に行っています。マスク越しのコミュニケーションが続いており、お互いに表情がわかりづらいデメリットがありますが、マスク越しであってもしっぴータイムで身に付けた「話し手を見てうなずきながら話を聞く」習慣により、人との距離は保ちつつも心の距離を縮めることができ、安心して学校生活を送る一助になっていると感じています。本年度は、これまでの活動の成果を発信するため、11月7日(月)に自主研究発表会を開催し、県内外から150名ほどの教育関係者をご参加くださいました。

また、「しっぴータイム」を継続してきたことで獲得した力を、各教科で生かす場として授業展開の中に「しっぴートーク」を設けています。学習指導要領が変わり、今まで以上に身に付けた知識技能を活用し課題を解決する力が求められていますが、「しっぴートーク」を取り入れることにより、他者とかかわりが深まり、協働して各教科のねらいに迫ることができると考え取り組んでいます。授業者はタブレットなどのICTを活用する場面と、しっぴートークなどの人とかかわりの中で学びを深める場面を、どのように組み合わせると効果的かという課題をもって授業に臨んでいます。

### (2) 異年齢集団の編成(縦割り)による学校祭

本校は異年齢集団でのかかわりを大切にしており、全校を縦割りにしたブロック制で行っている学校祭は毎年大いに盛り上がります。学校祭は文化祭と体育祭の2日間で行っており、文化祭は、合唱コンクールや吹奏楽部演奏、有志発表を行い、体育祭は、学年競技に加え、ブロックパフォーマンスとブロック対抗競技を行っています。

学校祭の準備は学校祭テーマをデザインしたモザイク画の作成から始まりました。モザイク画とは体育館の舞台一面に掲げる縦4m×横10mの壁画のことで、生徒一人一人がデザインの一部分を担当して色を



【学校祭テーマ 一心楽華】

塗り、それを有志ボランティアが貼り合わせて仕上げるものです。完成発表時の様子から、この制作を通して生徒たちは大勢の力が一つに集まると感動が生まれることを実感したようです。また、ブロックパフォーマンスやブロック合唱の練習を通して、ともに認め合い、励まし合いながら互いの友情を深め、団結して学校祭をつくりあげることができました。

### (3) 基礎学力の向上

基礎学力の向上のため、日々の授業や朝学習の時間などを利用して、できるだけ数多くの多様な問題に触れられるようにしています。本年度から一人一台のタブレット活用が加速しているので、TPOにあわせて紙面を用いたりタブレットで取り組ませたりしました。とりわけ、受験を控えた3年生は、毎日の朝学習としてタブレットを用いた問題演習に力を入れており、その様子を見ると、生徒個々のペースに合わせて解き進めることができていました。全員同じ紙面に一斉に取り組む状況とは異なるメリットが感じられました。

### (4) ハートヘルスタイム講演会

11月18日(金) 命のマガジン『メッセンジャー』編集長の杉浦貴之氏を講師にお招きし、「逆境をプラスに変える生き方～がん余命半年から23年～」を演題に、ハートヘルスタイム講演会を開催しました。「命はそんなやわじゃない。決してあきらめないこと、そして助けを求めることが大切」と話してくださいました。全校生徒、職員、保護者の約450人が、杉浦さんのお話に聞き入っていました。



【講師: 杉浦貴之氏と講演会の様子】

### (5) 指導力の向上

教職員の指導力向上を図るため、名城大学の曾山和彦教授を講師に招き、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることをテーマとした現職教育を行いました。他者とかかわり合いながら自尊感情を高めよりよい自己実現を目指して主体的に学ぶことができる生徒の育成のため、曾山先生には全クラスを参観していただきご指導いただいています。複数年にわたってご指導いただいているため、本校の状況をしっかりと踏まえた上で、現状を改善するためのアドバイスをいただくことができました。

## 3 評価

- ・ 体育祭における縦割りブロック活動は、生徒自身が考えたブロックパフォーマンス、ブロック合唱を通して、学年の垣根を越えて励まし合ったり、教え合ったりする姿が多くみられました。
- ・ 「しっぴータイム」の継続的な取組に加えて、ハートヘルスタイム講演会などを行うことで、生徒の自己肯定感、自己有用感が高まりました。授業においても、話し合い活動が定着し、活発な意見交換ができるようになってきました。
- ・ 授業や朝学習など、タブレット端末をはじめとしたICTを活用し、学びを定着させることができてきました。

## 4 課題

- ・ かかわりの力を育む「しっぴータイム」は、継続させることでより効果が高まるため、今後も全教職員で共通理解をして進めていくこと。
- ・ 授業においてタブレット端末などのICTを活用する場面と、しっぴートークなどの人とのかかわりの中で学びを深める場面をどのように組み合わせると効果的か研究を深めること。